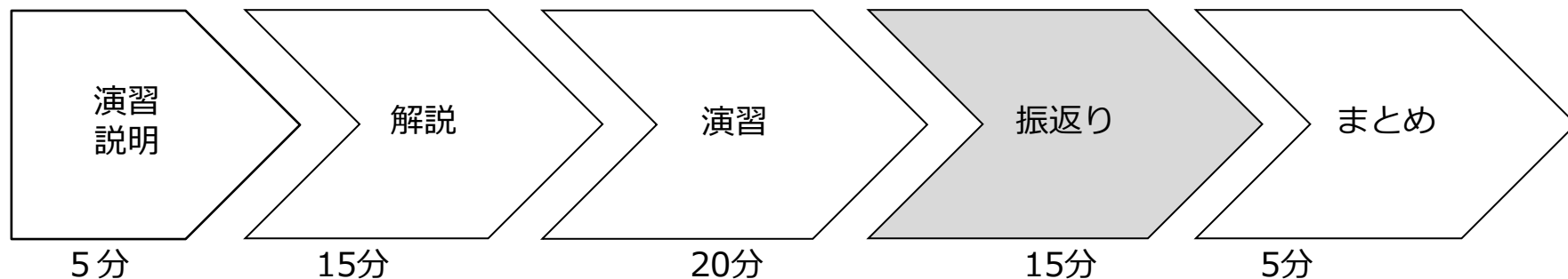


チームプレイの基本

- ・ 支援手順書に基づく支援の体験

－ 指導者研修用 －

演習の流れ



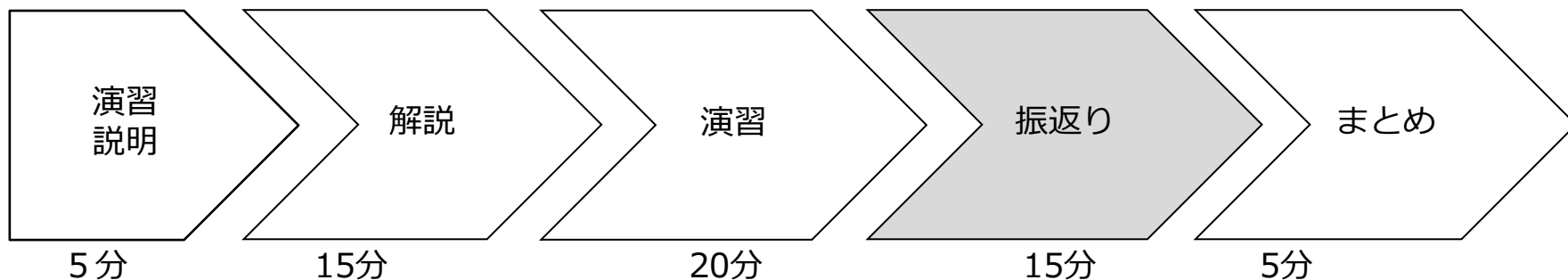
演習説明

使用するシート

- 「外出の支援手順書」

この時間で学ぶこと

- 同じ支援に関わる支援員全員が統一された支援を提供することで、本人が落ち着いて活動することができることを学びます。
- 支援の様子を、的確に記録し反映する事で、次につながる支援記録を残すことを学びます。
- 行った支援を的確に引き継ぎ、同じ質を担保しながら、さらに良い支援を組み立てていくため、職場内の連携を学びます。
- 支援手順書や環境調整(構造化)のアイディア、目で見てわかりやすい手がかりの使い方を体験します。



外出場面での支援手順書と記録の使用 田中さんの支援

■「外出の支援手順書」

田中さんの行動と背景の特性・支援のアイデア

行動	背景の特性	支援のアイデア	田中さんを支援するためのアイデア
• 支援者の声掛けにはエコラリア（反響言語）で答える。	【コミュニケーション】 7) 話し言葉の理解が難しい 10) 話し言葉で伝えることが難しい 11) どのようにして伝えたらいいかわからない	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点） E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）	絵カード（写真、絵、文字）などを活用し、言葉でのやり取りはしない
• 公園を見ると走り出す	【想像力】 19) 先の予測をすることが難しい 22) 興味関心が狭くて強い	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点）	事前に次の活動を伝える
• ブランコに乗るのが好き • 水を触るのが好き	【感覚】 26) 視覚の過敏や鈍麻がある 27) 触覚の過敏や鈍麻がある 30) 前庭覚の特有の感覚がある	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）	好きな活動を取り入れ、楽しみを提供する

田中さんの行動と背景の特性・支援のアイデア

行動	背景の特性	支援のアイデア	田中さんを支援するためのアイデア
●水を触り始めると、時間を忘れて触っていたくなる ●タイマーが鳴ると水を触ることをやめる	【想像力】 16) 段取りを適切に組むことが難しい 18) 今やることを自分で判断することが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)	タイマーで終わりを伝える
●絵で示した活動スケジュールを見て行動する	【社会性】 6) 見えないものの理解が難しい→見えるものは得意 【コミュニケーション】 7) 話し言葉の理解が難しい 9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい 【想像力】 17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい→具体的な提示は理解できる	G)本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点) D)本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える (やりとりの視点・見え方の視点)	スケジュールを提示する
・騒がしいところでは耳ふさぎをする	【感覚】 25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする (場所の視点)	声かけを最小限にする

スケジュールと活動カード

スケジュールの
セット



こうえん



おひるごはん



おちゃ



いえにかえる

こうえん

おちゃ

おひるごはん

いえにかえる

ポケット

注：活動内容を示したカード「活動カード」
全体の予定を示したボード「スケジュール」

外出場面での支援手順書と記録の使用 田中さんの支援

■「外出の支援手順書」

田中さんの動き

場面	行動
スケジュール確認	・ 出発前のスケジュール確認では、目線に合わせスケジュールを見せ、指差しされた活動カードを見ることができる
全ての場面	・ 支援者の声掛けにはエコラリア（反響言語）で答える
全ての場面	・ 声掛けが続く、2語分以上の声かけがあると動かない
公園の場面	・ 公園に近づくと走り出す、言葉での制止には反応しない ・ ジェスチャーでの制止には理解し止まる
公園の場面	・ ブランコは10秒ぐらい乗っている
水道で水を触る場面	・ 水道には自分から近寄り水を触る ・ 言葉での制止には反応しない ・ タイマーがなったら「終わり」は理解している
お茶を飲む場面	・ カバンからお茶を取り出し、ペットボトルのキャップを開け飲むことはできる

支援手順書を読んで確認しましょう

先程と同様に、支援手順書に沿った支援映像が流れますので、課題になる点、共有したい点を抽出し、次につながる記録をとってみましょう。

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）		
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。 お茶をカバンに入れる。			
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	田中さんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差して予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。			
散歩	公園に向かって歩く	田中さんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時は田中さんの前に出てジェスチャーで止まる様に促す。 公園に近づくことと走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前には手を出すジェスチャーで止まる様に促し、支援者が安全確認する			
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認。（活動カードを外す） ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認（活動カードを外す）、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える ＊田中さんが水遊びを始めた時は、タイマーを10秒にセットし、田中さんに見える様にセットし、「10秒でおいまい」と声掛け。 タイマーがなったら田中さんが水道を止めるので、次の活動を促す。			
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すことがあるので、本人の前に出てジェスチャーで止まってもらい支援者が安全確認。 店前でスケジュール確認（活動カードを外す）。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。	今回は記入しません。		
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認（活動カードを外す） 家族に田中さんの様子を伝える。	今回は記入しません。		

＊スケジュール確認の手順

- ＊スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
- ＊活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
- ＊次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し単語で伝える

＊本人と関わる際の注意点

- ＊声掛けが多くなると混乱しやすいので、声かけは最小限にする
- ＊公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出すことあり
- ＊事前にジェスチャーで止まる様に促し支援者が安全確認する



動画を視聴します

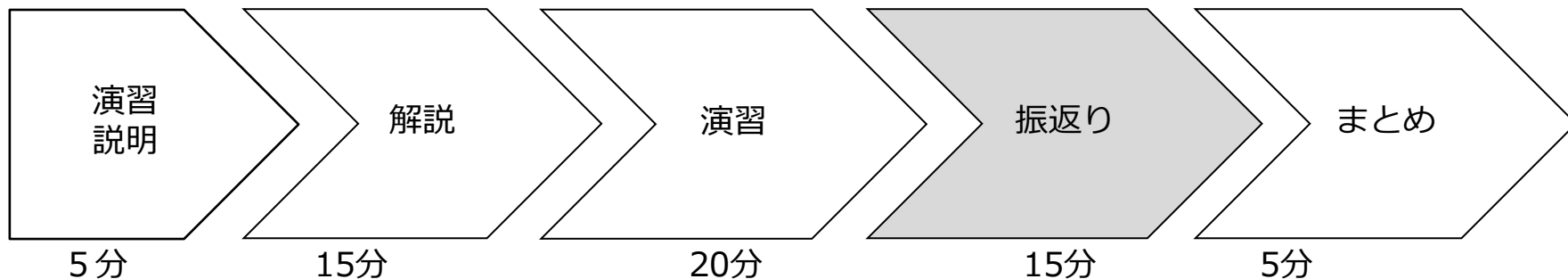
記録をつけましょう

映像をみて、支援手順書に沿った支援ができていたかどうか。

改善点などがあったら一緒に記録しましょう。

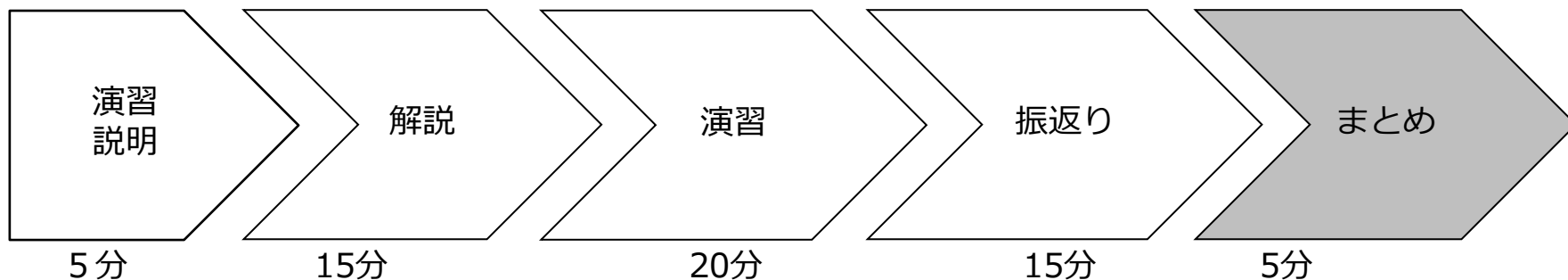
記録する内容

- ・ 田中さんの様子（具体的に記載）
- ・ 共有したい内容



外出場面での支援手順書と記録の使用 田中さんの支援

■「外出の支援手順書」



外出場面での支援手順書と記録の使用 田中さんの支援

■「外出の支援手順書」

まとめ

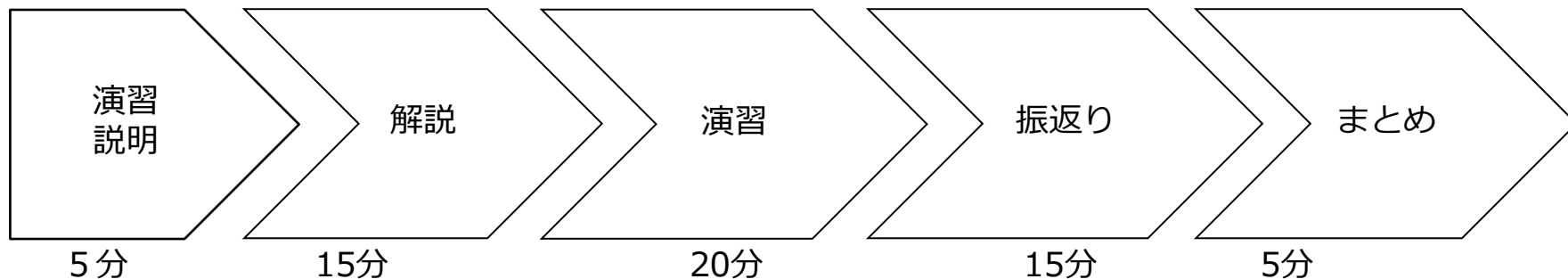
1. 支援手順書に従って関わることが重要
→対応の統一、安定した支援につなげる
2. 支援した結果を記録に確実に残す
→記録を残すことで、次の支援にスムーズに取り組むことができ、課題行動がいつから起きたのかを振り返る事ができるようになり、地域との連携をする際、貴重な情報として活用することができる。
3. 的確に引き継ぐことで、良い支援を提供する
→引き継ぎを行い情報共有することにより、人が変わっても質を担保しながら、より良い支援を提供することができる。

それぞれの地域で実施するときに

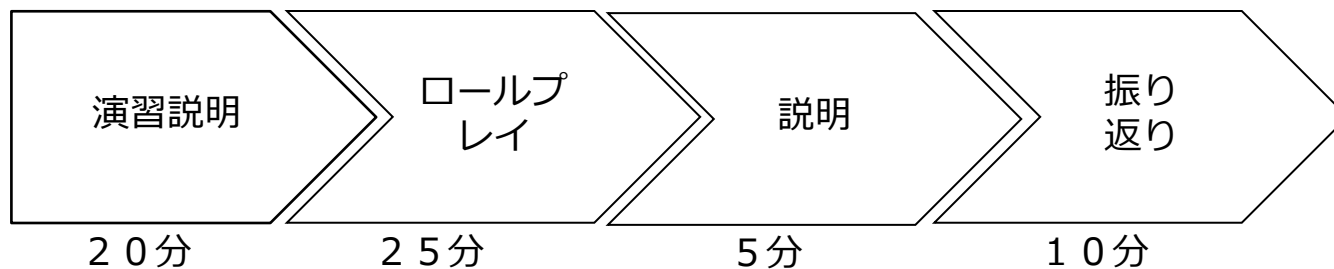
指導者の方へ

- 地方研修において、地域によっては集合研修で行うことがあるかと思います。
- 集合研修においては、今回オンライン研修で行った記録の演習だけではなく、記録を取るために見ていただいた映像の田中さんとヘルパーさんの動きをロールプレイで行っていただき、自分がヘルパー役で行った時の記録を取っていただくようになります。

オンライン研修の流れ



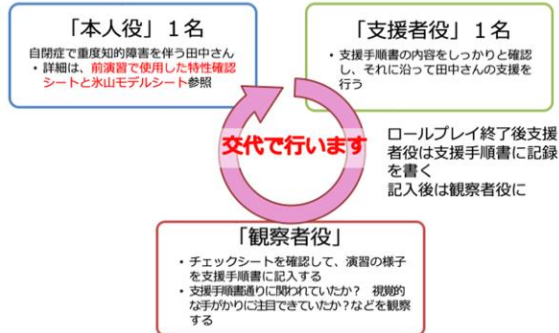
集合研修の流れ



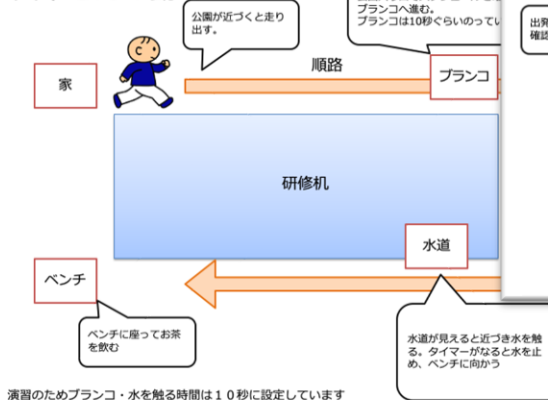
時間はどちらも60分の演習です。

集合研修での追加部分

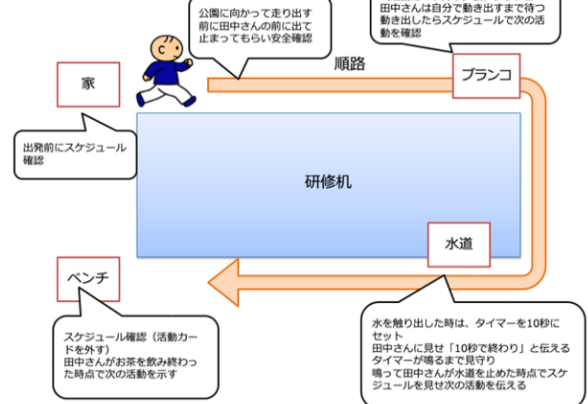
配役と流れ



田中さんの動き



支援者の動き



観察者役の注意して見守って欲しい点

チェック項目	
支援者の理解	支援手順書を理解し、その通りに関わっている
	視覚的な手がかりの意味を理解して関わっている
支援者の関わり方	視覚的な手がかりに注目させている
	過度な声掛けは控えている
	指示は一つずつ伝えている (声掛けとジェスチャーは同時にしないなど)
	田中さんのペースに合わせて関わっている

記録をつける

支援者役はロールプレイの終了後に、自分が行った支援の様子を支援手順書の記録欄に記録する

記録する内容

- ・ 田中さんの様子（具体的に記載）

集合研修用のスライドは別のデータとして提供いたします。

集合研修での追加部分

配役と流れ

「本人役」1名

自閉症で重度知的障害を伴う田中さん
・詳細は、前演習で使用した特性確認シートと氷山モデルシート参照

「支援者役」1名

・支援手順書の内容をしっかりと確認し、それに沿って田中さんの支援を行う

交代で行います

ロールプレイ終了後支援者役は支援手順書に記録を書く
記入後は

「観察者役」

- ・チェックシートを確認して、演習の様子を支援手順書に記入する
- ・支援手順書通りに関わっていたか？ 視覚的な手がかりに注目できていたか？などを観察する

ロールプレイは、グループ全員が全ての役を持ち回りで行います。本人、支援者役以外は、観察者役として、手順書通りに行動することができていたか確認し、後ほどグループワークで発表します。

田中さんの動き

